第５回 中国残留日本人への理解を深める集い

「中国残留孤児となった弟よ！」

と　き：2019年11月30日（土）13時～16時

ところ：尼崎市立中央北生涯学習プラザ１階大ホール（入場無料）

（尼崎市東難波町２丁目14-1 ☎：06-6482-1760）

第一部：弟を探し続けた兄の証言

講演者：田中 義祐 氏

収容所に戻ってみると弟たちがいなかった。母は私と姉がいない間に弟たちを中国人に預けたのだった。しばらくして母は亡くなった。。。

『瀋陽の難民収容所「私たち何じんですか」高文研より』

第二部：映画上映「ソ満国境 15歳の夏」

（94分）

1945年夏、敗戦によってソ連と満州の国境付近に置き去りにされた15歳の中学生たちの苦難をつづった田原和夫の同名手記を映画化。

【写真展】（1階ホール前ロビー）

昇平開拓団の入植地（中国黒龍江省）を訪ねて

撮影　宗景 正

「開拓団が入植していた当時と同様の民家」
撮影 宗景正

主催：尼崎市（委託事業団体：コスモスの会尼崎日本語教室）
協賛：近畿中国帰国者支援・交流センター
問合せ先：コスモスの会 石打謹也（TEL090-7489-7091）
ＨＰ：http://kosumosunokai.sakura.ne.jp/kosumosu.html

田中義祐さんの紹介

1932 年大阪市生まれ。小学校 5 年生の時、家族 7 人で大阪から、転業者で組織された昇平開拓団に加わり満州に渡った。大工だった父は入植してまもなく亡くなった。母は共同の農作業に加わり働いた。45 年 8 月、避難命令が出て、鉄道駅のある安達に逃げ、知人の馬小屋で暮らした。12 月になり、ハルビンの花園小学校に収容された。出かけていた田中さんと姉が収容所に帰ってみると年下の 2 人の弟たちがいなかった。先を案じた母が弟たちを中国人に預けたのだった。母はしばらくして亡くなり、すぐ下の弟も亡くなった。姉と田中さんは開拓団の人たちといっしょに引揚げたが、弟 2 人は残留孤児となり中国人に育てられた。中国との国交が回復してしばらく後、ハルビンに住んでいた残留婦人から開拓団引揚者の支援団体に情報が入り、年上の弟の修さんとは再会できたが、一番下の弟は亡くなっていた。その後、修さんは田中さんが保証人になり、帰国を果たし、同じ尼崎の近所で暮らしている。

映画上映「ソ満国境 15 歳の夏」あらすじ

東日本大震災から 1 年後の福島。15 歳の敬介は、1 年が経った今でも仮設住宅で避難生活を送っていた。中学最後の夏、放送部の作品作りができないことを残念に思う敬介と部員たち。そこへ突然の招待状が舞い込んでくる。見知らぬ中国北東部の小さな村が、ぜひ取材をしてほしいと敬介たちを招待したのだった。期待と不安を胸に果てしない平原が広がる中国へと旅立つ放送部一行。招待主は中国のとある村の長老・金成義（ジンツンイ）という人物だった。

長老は 67 年前ある出来事について語り始める。それは戦時中、敬介たちと同じ 15 歳だった少年たちの壮絶な体験だった。

昭和 20 年 5 月。終戦間近のソ連と満州国の国境付近に勤労動員として送られた中学生たち。敗戦直後、彼らはそこに置き去りにされた。原作は、少年たちの故郷へ帰るまでの過酷な旅路を、生存者の一人が実体験として綴った壮絶な記録。

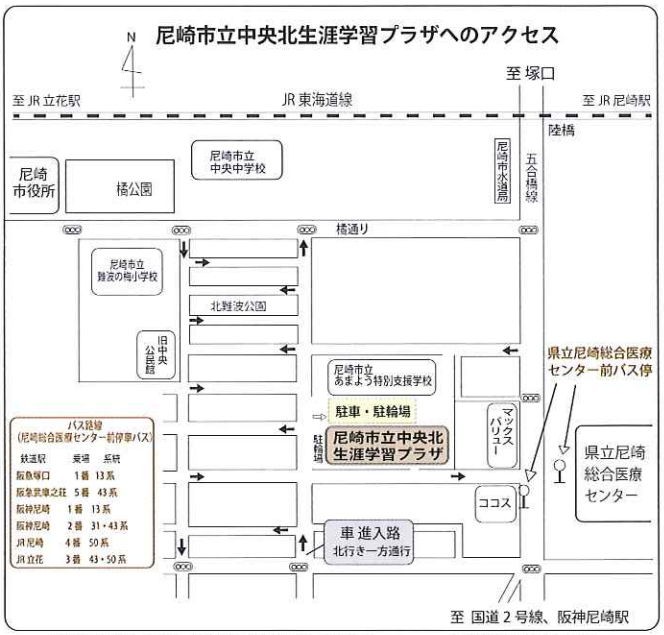
コスモスの会
尼崎日本語教室

ボランティア募集！

教師の資格は要りません。
中国語ができなくても大丈夫！
私たちと一緒に楽しく
ボランティアをしませんか！

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

活動日：毎週火曜日　午後 1 時～ 3 時
場所：尼崎市立中央北生涯学習プラザ
問合せ先：090-7366-5915（代表：宗景（むねかげ））



住所：〒660-0862　尼崎市東難波町 2 丁目 14－1　　電話：06-6482-1750